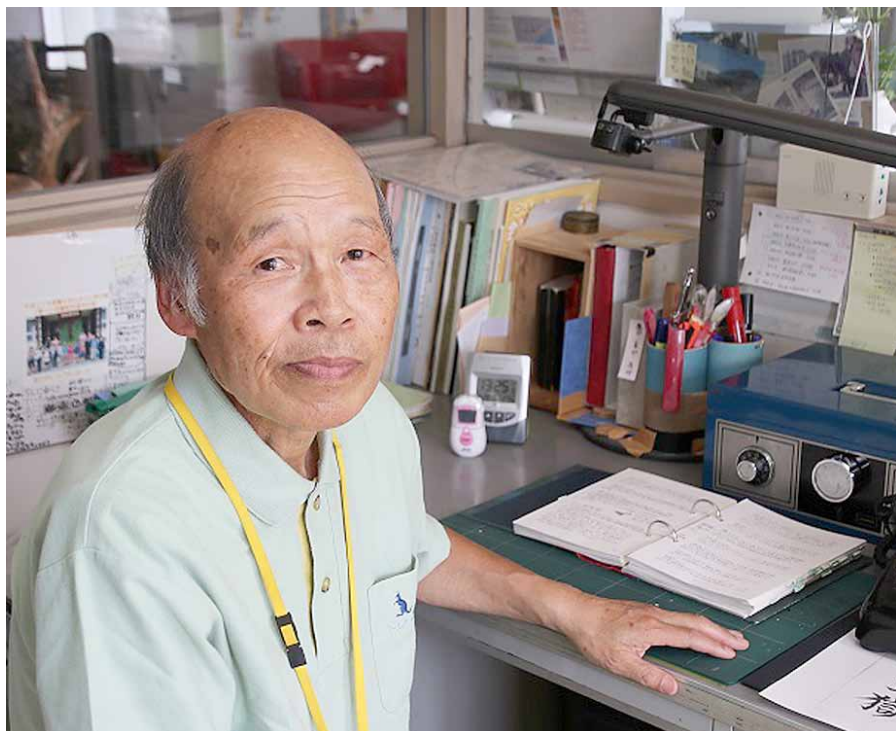


# 滝上の人

## 故郷を伝える

今回は、郷土館の管理人をしている小栗健次（おぐりけんじ）さんにスポットをあてていきます。

小栗さんは、昭和25年、白鳥地区生まれの現在71才です。小栗さんは、高校まで滝上、進学した際は一旦、滝上を離



新町 小栗 健次さん

れましたが、昭和49年に帰郷し、役場職員となり退職後、郷土館の管理人となります。

幼いときの白鳥地区の様子を伺うと、白鳥地区に住んでいたのは20戸ほどで、周りは農業を営んでいる方が多かったです。小学生の時には滝上小学校まで片道4キロの通学路を徒歩で通っていました。思い出は地区の青年団が神社近くの会館で芝居をしていたのを見に行ったことを覚えています。また、昔、道路は砂利道だったため、春になったら地区の人たち皆で道路に砂利をいれて、ならしていたと当時の様子を教えていただきました。

役場の職員時代の様子について伺うと、最初は税務係に配置になり、その後、色々な係を経験したとのことでした。係の異動がある度に、その係のことを一から勉強しての繰り返し。職員の時は、業務をこなすことで精一杯だった。その中でも住民のことを第一に考えていた。と当時の仕事の姿勢などを教えていただきました。

そして、退職して一年後、

現在の郷土館の管理人となります。

郷土館の管理人として働くようになり、はじめは、館内の清掃と来館した方の料金の受取を主に業務としていました。「そもそも町の歴史に興味があったんですか？」と尋ねると「中学生の時から町の歴史に興味があった。また、役場職員時代に町民から昔の話をよく聞く機会があったけど忙しくてね。退職してから調べようとしてたんだよね。」と教えてくれました。そうしていると教育委員会から展示品の台帳を整理してほしいという話があり、資料作りを始めます。台帳は昭和59年を最後に更新されていなく、そこから小栗さんが整理したものは平成24年までの分で1398件、そのあと今まで1047件。まだまだ、整理しきれないものがあるとのこと。鑑定に出すとそれほど価値がないものでも、当時の滝上を知るうえで重要なものが出てくるとわくわくすることです。「その品物を使っていた人の様子を知ることができるものほど面白い。今は

デジタルで何でも知ることができるけど、手に触れることができるものも大事だと思っただよ。」とおっしゃっていました。

また、SLが屋内にある施設は珍しく、郷土館に鉄道マニアの人が来ることが多いとのこと、私が取材のお願いに行った時にも、お客さんがSL目当てに来ていました。

小栗さんは「ここには祖母や父母が滝上に住んでいたことがあり、訪れた人が、当時は懐かしく感じることも出来る場所でもあるんだよね。」と最後に一言。

今後も、私たちに貴重な品物などを通して故郷、滝上のことを教えていただきたいと思います。



SL 9600型No.39628号機